

コロナ禍における林業・木材産業への影響と対応



令和2年(2020年)

(社会情勢の動き)

【前半】消費増税(2019年10月)による駆け込み反動
新型コロナウイルス感染症の感染拡大による経済活動の縮小
(4/16緊急事態宣言を全国に拡大(~5/31))

【7月】豪雨災害発生

【後半】国内経済は回復基調へ(2020年名目GDP(年率換算)は
-27.7%(2Q)⇒+24.1%(3Q)⇒+12.1%(4Q))

(林業・木材産業への影響)

木材需要の低迷
↓
原木の需給過剰
↓
丸太の価格下落

林道等災害による
林業生産活動の停滞
↓
原木不足が加速し、
丸太価格・製品価格が回復

(国有林への影響とその対応)

国有林において供給調整を実施
[販売済み立木の搬出期限
の延長(約3.4万m³)]
(※民有林においても伐採を抑制)

災害に伴い製品生産事業
において一部取り止めや
数量変更を実施

令和3年(2021年)

【2月】大雪災害発生

【3月~】米国や中国における旺盛な木材需要やコンテナ不足等
により外材輸入量が減少し木材価格が高騰

住宅価格の上昇や住宅着工の遅れ

【8月】8月11日からの大雨による被害

大雪による出材の遅れ

代替材として国産材の
引き合いの強まり
↓
丸太・製品価格の高騰、
原木不足が顕在化
↓
昨年の需要低迷から木材搬
出の搬出量増加せず

R2年度補正予算
及び
R3年度経常予算による
製品生産事業の早期発注等
を実施

管内の状況(2021年8月)

- 川上(素材生産) — 労働者不足等から、外材減少分を直ちに増産することは困難な状況
8月の豪雨により林道等の施設に被害
- 川中(原木市場) — 原木の価格の上昇・材の集荷が需要増に追いついておらず
既存のユーザーへの供給にも苦慮
- 川下(製材工場) — 外材の代替として国産材製品の引き合いが強く、生産能力
を超えた注文があるものの既存ユーザーへの供給を優先

国産材需要拡大のチャンス
と捉え安定供給体制の強化
が急務の課題

中部森林管理局管内における当面の対応

令和3年度 第1回 国有林材供給調整検討委員会 令和3年6月10日（木）webにより開催

米国や中国を中心とする旺盛な木材需要やコンテナ不足等に伴う外材輸入量の減少と木材価格の高騰、代替品としての国産材への引き合いの強まりに伴い、ヒノキ・カラマツ・スギ全てにおいて原木需要が高まっているものの、供給が追いついておらず、需要に応じられるだけの原木の集荷が厳しい状況。

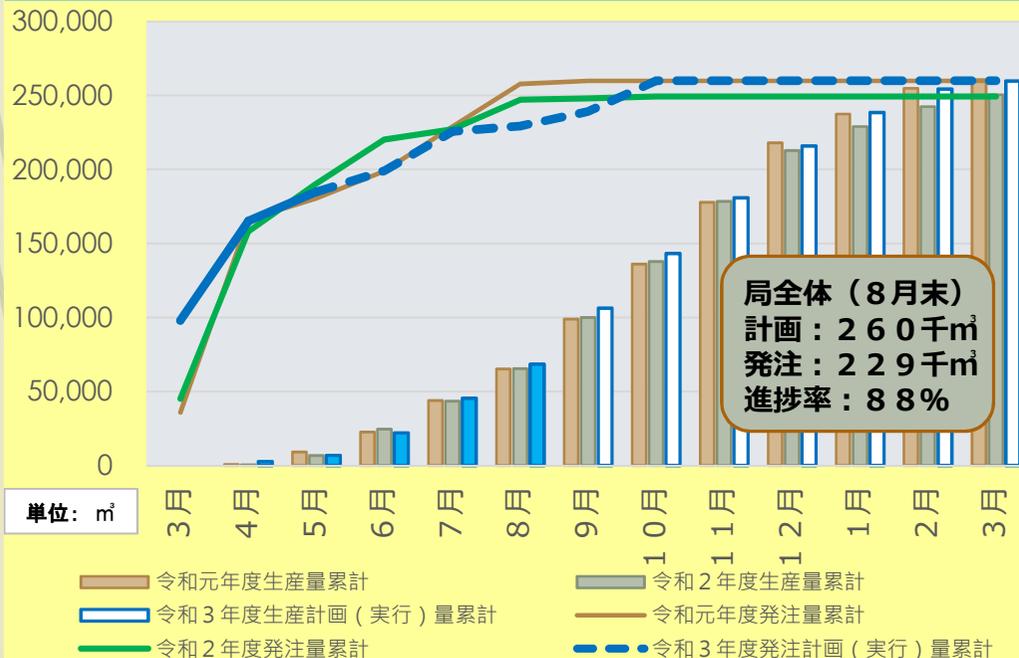
一方、川上の木材供給サイドは、昨年度前半のコロナ禍による木材価格の急落に伴う伐採抑制から回復しつつあるが、急激に高まる原木需要に対しては、伐採に必要な労働力の確保等の問題からすぐに対応することが出来ない状況。

現下の増大する原木需要に対応するため直ちに国有林材の供給調整を行う必要はないが、引き続き本年度の製品生産事業の早期発注並びに市場への木材供給を確実にし、国有林材の安定かつ計画的な供給、より需要に対応した供給に取り組むべきである。今後の国産材の安定供給体制の強化に資するべく、国有林のネットワークを活用して管内の木材の需給状況に関する情報を引き続き積極的に収集し、必要な情報を広く民有林関係者に発信していくことも重要である。

なお、昨年度から実施をしてきた立木販売の搬出期間の延期については新たな措置を行う必要はない。

1 製品生産事業の早期発注による計画的な国有林材の安定供給

過去3年間の生産発注量及び生産量進捗状況



2 国有林のネットワークを活用した需給状況に関する情報発信現状を踏まえた情報収集と共有

- 局、署等において、川上、川中、川下、それぞれの情報を積極的に把握し、必要な情報を民有林に共有する。

3 今後の国産材の安定供給体制の強化に資するべく、需要動向に応じた供給に取り組む

- 原木の取扱いが難しい時期となることから、材が滞貨することなく生産するよう品質管理の徹底を行う。
- 需要に応じた採材を行うため、需要者と連携し、迅速な指示等の対応を行う。
- 可能な限り、製品販売計画の前倒しを検討していく。